

令和8年3月17日

久留米市議会議長 石井 秀夫 様

議会広報委員長 そうだ 耕一郎

議員派遣報告書

本委員会は、会議規則第160条の規定に基づく派遣について、次のとおり実施しましたので、報告書を提出します。

記

1. 日程 : 令和8年2月9日(月)～10日(火)
2. 派遣先 : 東京都あきる野市
3. 視察内容 : 議会の広報について
4. 派遣議員 : 委員長 そうだ 耕一郎
委員長職務代理者 生野 薫
委員 堀田 洸太郎、長野 哲、佐藤 晶二、
藤林 詠子
5. 報告書 : 視察報告書のとおり
6. その他 : 随行 上野 泰平

視察報告書

委員会名	議会広報委員会
視察日時	令和8年2月9日（月） 午後3時00分～午後4時30分
視察先・概要	東京都あきる野市 人口：約7万8千人 面積：73.47k㎡
視察内容	議会広報の取り組みについて
選定理由	市議会だよりの先進地であることが選定理由の一つ。その他、SNSの活用や、市議会や議会だよりに関するアンケートなど様々な取り組みについて調査し、今後の議会広報の充実に向けた取り組みの参考とするため。
調査概要	<p>あきる野市議会において、臼井議長の挨拶に引き続き、広報広聴委員会のひはら委員と辻委員から議会広報の取り組みについての説明を聴取し、質疑応答を行った。</p>  <p><視察の様子：あきる野市></p>

調査内容

(市議会だよりのリニューアルについて)

平成 23 年 10 月、議会報編集特別委員会の調査編集グループ(議員 3 名、職員 1 名)が市議会だよりのリニューアルについて検討開始。

他の議会の広報紙など 10 冊の中から、どの冊子の表紙が手に取ってみたいか市民アンケートを実施。あきる野市の市議会だよりを選んだ人は 4%だった。

「手にとってもらえる表紙」「気づきを与える表現方法や読みやすさ」を目指して、リニューアルに着手。内容を検討し、編集委員と代表者会議へ提案。その後、リニューアル決定(H25. 2. 1 に発行)。

タイトルは、生活に直結する議会の活動を知ってもらう時間にしてほしいという願いを込めて「ギカイの時間」とした。

リニューアル後のアンケート結果では、200 人中 170 人が、リニューアル後が良いと回答(85%)。

(市議会だより「ギカイの時間」について)

特徴は、興味を引く特集と表紙。毎号特集記事のターゲットを変え、時間をかけて全ターゲットを獲得。特集の対象者の人選や取材を行うのは委員。議会と市民との距離を縮める効果もあった。

表紙は、特集とリンクさせる。原則 1 人写真。

議案審議や一般質問の記事では、行政用語ではなく「通じる言葉」を使う。知らせたいことと、知りたいことの差、読んでほしい量と、読める量の差を考えて、分かりやすい文章に置き換えて説明。

裏表紙には、小学生が夢を語るコーナーや啓発的な記事の掲載。

統一感のあるデザインや、導線やホワイトスペース(余白)を考えて配置(余白を無理に埋めない)している。

掲載する議案は 7 つほどに絞っていて、議員によってどの議案を掲載したいのか意見が違うので、毎回苦労している。

一般質問は字数が決められているので、どのように正確に伝えるのか苦労している。質問の原稿は、質問した議員が原稿を作る。回答の原稿は、早出し原稿をもとに委員が作り、別の委員がチェックする。その後、委員会の中で本当にこれでいいかを確認しているが、そこも苦労している。

配布方法は新聞折込だが、購読者が減っていて、配布の対象となる市民が 50%を切っているので、課題だと認識している。

4 年に一回見直し検討しており、現時点では見直しの予定はない。

(アンケート結果について)

令和 6 年度に、「市議会と議会だよりに関する」アンケートを実施。調査項目は、「議会だより」「市議会ホームページ」「開かれた議会に

	<p>向けて必要なこと」など。</p> <p>議会だよりについて、読んでいると回答した方が半数を超えていた。一方で、議会だよりを読まない理由は、「関心がない」と回答した方が一番多く、前回(H28)から13%増えて、50%になっていた。</p> <p>また、市議会ホームページについては、「見ない」という回答が8割近くを占めており、前回と同じ結果となっている。</p> <p>アンケートの結果を受けて、イベントの際に委員が出向いて、議会だよりを配る取り組みを実施。</p> <p>(SNSの活用について)</p> <p>市議会公式のSNSについては、FacebookとInstagramについては今年度から始めたばかりで、若い人が見ているかなど、効果はまだ検証できていない。議会をフォローしてもらうために、前々号の議会だよりからSNSのQRコードを掲載したり、イベントの際にQRコードが載っているチラシを配布して周知している。</p> <p>(その他の広報の取り組み)</p> <p>議会報告会を2016年から2018年に実施。平日の夜や、土日の昼間に行ったがなかなか人が集まらないし、来られても同じ方が来るような状況。継続していくか議論を続けていた。</p> <p>議長から主権者教育をやりたいという話があり、この広報広聴委員会ではなく、プロジェクトチームを作って、市内の中学校で主権者教育をやった。議会がどのようなもので、どんな意味があるかを伝えた。</p>
<p>主な 質疑応答</p>	<p>問：議会だよりの一般質問の原稿について、質問した議員が作成しているとのことだが、どのように調整しているのか。</p> <p>答：一般質問の早出し原稿があるのでそこを委員会で確認して、発言していない部分がある場合は、委員が間に入って調整している。</p> <p>問：特集記事のターゲットは誰が決めているのか。</p> <p>答：新しく広報広聴委員会が決まった時に、こういうのがいいのではというアイデアを出しあって、リストにまとめておく。特集の担当が決まった時に、そのリストから選ぶこともあれば、それ以外から決めることもある。最終的には委員会です承を得ることになる。</p> <p>問：議会だよりの中で、一般質問に力を入れている理由は。</p> <p>答：以前から同じくらいの分量で載せていた。一般質問に特に力を入れているわけではないが、市民の方は、議員が何を質問しているのか、何を課題だと認識しているのか、気になっているのではないかと思う。</p>

問：議会だよりは毎月発行ではないので、どうしても市の広報紙のおさらいのような内容になることがある。何か考えはあるか。

答：市の広報は決まったものが載る。議会の広報紙は決まった過程、どんな質疑があったかが載るのでそこが違いだと思う。その内容を分かりやすく記事にしている。

問：久留米市議会の広報委員会では紙媒体をどうしていくかを検討しているが、若者に議会だよりを読んでもらうために変えていこうという意見はあるか。

答：委員会全体の意見ではないが、ある委員からは、紙媒体はシンプルにして、ホームページを充実したらどうかという意見はある。



<集合写真：あきる野市議会議場にて>

<p>その他 (意見・感想)</p>	<p>あきる野市議会と久留米市議会の、市議会だよりの紙面づくりにおける考え方で似ている部分があった。良い点も課題も含めて現状を改めて認識できた。</p> <p>本市議会では、市議会だよりのデジタル化について検討しており、掲載する情報やコンテンツ、スケジュールなど、市議会だよりを見直すにあたり、参考にしていきたい。</p> <p>視察の中でも触れられていたが、市議会に関心を持ってもらうためには、議会で議論されていることが、自分の生活に関係していると知っていただくことが重要である。その視点を踏まえて、情報発信のさらなる充実に向けて、デジタル化を含めた議会広報の在り方やその手法について、協議・検討していく。</p>
------------------------	--